

会 議 録

詳細 - 長期計画担当課 電話03 - 3981 - 1479

附属機関又は 会議体の名称	第5回 豊島区基本構想審議会第2部会	
事務局（担当課）	長期計画担当課	
開催日時	平成15年10月28日（火）18:00～20:15	
開催場所	豊島区第一委員会室	
出席者	委員	渋谷秀樹（立教大学教授）、四阿知子（一般公募）、粕谷一稀（評論家）、水島正彦（助役）、今村勝行（収入役）、二ノ宮富枝（教育長）、高橋明宏（一般公募）、小林俊史（区議会議員）、中田兵衛（区議会議員）
	幹事	企画課長、行政管理課長、広報課長
	その他	政策経営部長、総務部長、区民部長、商工担当部長、清掃環境部長、都市整備部長、区有財産活用担当課長、総務課長、防災課長、区民活動推進課長、文化デザイン課長、生活産業課長、観光振興担当課長、計画管理課長、公園緑地課長、生涯学習課長
公開の可否	公開	
非公開・一部公開の 場合は、その理由		
会議次第	(1) 体系6「魅力と活力にあふれる、にぎわいのまち」について (2) 体系7「伝統・文化と新たな息吹が融合する文化の風薫るまち」について (3) その他	

1. 開会

事務局： 只今より豊島区基本構想審議会第2部会第5回目の部会を開会する。本日、森田委員、B委員、C委員から欠席の連絡を頂いている。それでは、部会長よりよろしくお願いします。

2. 議事

渋谷部会長： それでは第5回目の第2部会を開会する。前回は、基本計画体系5「人間優先の基盤が整備された、安心、安全のまち」の審議まで終了した。本日は、基本計画体系6、7の審議をお願いする。本日の目安としては、すべての体系についての審議を終わらせる予定である。本日は、体系の政策が相互に関連しているので、政策ごとではなく、基本計画体系6、7と体系ごと一括

して審議をする。それではまず、基本計画体系6について事務局より資料の説明をお願いする。

事務局： 資料 - 5 - 2、 - 5 - 1について説明

渋谷部会長： 説明が終了したので審議をお願いしたい。

G委員： 質問であるが、政策(1)- 「観光まちづくりの推進」において、観光の売りなど、何を中心にしていくかという方向性はあるのか。「観光」だけでは漠然としているので、例えば、ターゲットは若者であるといった方向性があれば伺いたい。

商工担当部長： 池袋の小売・飲食の商業集積は他と比較しても非常に大きくなっている中で、これを売りにしていくことが大事であると考えている。さらに、映画館、本屋等も大規模な物があり、他の都市に比べて非常に集中しているので、これら文化面のエンタテインメントも観光の目玉にしていきたいと考えている。また、巣鴨は高齢者に一定のイメージが定着しており、地元の意向としても、健康という視点でより幅広い年齢の人が集うまちを作っていきたいということであるので、地域で確立されたイメージにより磨きをかけ、観光に結びつけていきたいと考えている。

G委員： それでは、池袋は若い人を対象に進めていくのか。

商工担当部長： 観光については学識経験者から意見をいただき、年齢で絞るべきかということについても論議しているが、実際に集積している商業施設、小売店舗等は若者を対象にしたものが多くなっているため、当然若い人がターゲットになるのではないかと考えている。

渋谷部会長： この項目は基本的には商工業、産業分野の課題になるが他にあるか。

I委員： 資料 - 5 - 1の2頁に記載されている「熊谷守一美術館」は、西口の住宅街の落ち着いたところに孤立しており、点でしかない。また、東口にある宣教師館も、住宅街の中にあり周辺の道を舗装したが、これも点でしかない。宣教師館は雑司が谷墓地に近いので、これらをつないだ文学散歩のようなことができるのではないかと。しかし、この周辺には喫茶店が1つしかなく環境が整備されていない。つまり、全体として点でしかない。点をどのようにして線にし、面にしていくかということにもっと工夫していただきたい。また、資料1頁の背景課題等の「商業拠点である巣鴨地区、大塚地区の集客力を維持、向上するため、集客関連施設などの整備が必要となる」となるが、これは具体的にどのようなことを考えているのか。

商工担当部長： 巣鴨には、関東だけではなく全国から大型観光バスで来訪するというケースが多くなっており、商店街に駐車場があるのか、あるいは食事ができるのかと問い合わせが増えてきている。

I委員： 全国から何を見にくるのか。

J委員： 商店街、お地蔵様の所を歩きにくるのである。

商工担当部長： 観音様を洗う人、御札をもらう人、ショッピングする人もいる。特に大晦日と新年には相当需要が多くなってきているが、大型の観光バスの駐車場や、休憩所、食事処などは整備されていないので、これらについて考えていく必要がある。また、大塚であるが、産業地区は沈滞化、商店街は老朽化している。しかし、大塚駅が全体的に改造されることにあわせ、商店街を中心にして周辺のまちも再生していこうという機運が高まってきており、具体的な再構築、再生を推進する契機になるかと考えている。

渋谷部会長： 前半部分の観光施設が点でしかないという指摘についてはいかがか。

商工担当部長： この指摘は非常に重要であると考えている。資料 - 5 - 2 の 1 ページに、「観光まちづくりの推進」の想定される事務事業の 1 番に、観光ルートづくりを考えている。粕谷委員より指摘を頂いた具体的な地区等についても念頭に置き、具体化したいと考えている。

渋谷部会長： 他にあるか。

M委員： まず、池袋が豊島区のものであるので、池袋を何とかしなければいけない。池袋は副都心であり、繁華街があるが、やはり他の大きな繁華街である銀座、新宿、渋谷に比べると出遅れているイメージを皆が共通して持っている。また、六本木が再開発されたり、品川には新幹線駅が建設されるなど再開発され、品川は何にもなかったところであるが、現在はものすごい乗降客になっている。そういう点では、池袋はある程度発展しきっているので難しいが、東口と西口の人のにぎわいの差が大き過ぎることが大きな問題である。東口のグリーン大通りからサンシャイン通りにかけてのにぎわいと、西口大通りから丸井にかけてのにぎわいを見ると歴然の差である。これは地元の商店街の声でもある。4 対 1 ぐらいの割合で西口が圧倒的に少ない。池袋は中心を南北に線路が走っていて、西武鉄道、東武鉄道、JRがあるので、西と東が分断されているイメージが否めない。そこで、東西交流を活発にすることが課題となる。昔に比べ、地下通路のウィロードなどはきれいになったが、ビックリガード、駅の地下道とあわせ、これらの通路を改善しなければいけない。まちづくりや市街地を活性化させるために行政ができることは限られている。商業を活性化するには商店の自助努力が絶対的に必要であり、行政ができることは、西口と東口の人の流れの活発化されるような音頭取りをすることではないのか。

話は変わるが、やはり昼間人口を増やさなければいけない。働いている人を増やさなければいけない。現状では横ばいの推移であるが、非常に状況は厳しい。東京湾沿いに大きなオフィスビルができ、新宿の高層ビル街などから、企業が次々と品川や六本木に吸い取られている。しかも条件が、家賃半年保

証、敷金・礼金の当分凍結など、考えられないような条件で大手デベロッパーが誘致している。そして、池袋は新宿に吸い取られているという構図になっている。池袋が打つべき手は、最先端のビルの誘致など再開発を行っていくことではないか。しかしながら、これは民間の力だけでは及ばないことであり、行政の音頭取りが必要である。これらにより、昼間人口を増やさない限り、商店街の活性化はないと考えている。また、観光の観点についてであるが、文化資源でいえば、池袋、豊島区は古い街であり、特に駒込は江戸時代から武家屋敷があり、豊富である。また、寺も多く、文化人もたくさんいた。しかしながら、一朝一夕でヨーロッパの古い街並みのような観光地にはならない。どこをターゲットにして、どういう人を呼び込むかという音頭取りを行政がしていかなければいけないではないか。

渋谷部会長： 一般的な池袋の状況について、問題点の指摘があったが、他の委員の意見はあるか。

I 委員： それが問題の核心である。新宿・渋谷は乗降客が減らず、池袋が減っているという差は、大きな改革を行ったか否かの差である。新宿は南口と東口をつなぎ、高島屋を誘致した。また、新宿の東口から南口へエスカレーターが24時間流れており、非常に行きやすくなっている。渋谷の場合は、昔の話になるが、公園通りの開発を行っている。まちの構造が変わるような大きな改革を新宿も渋谷も行っている。それらに比べ池袋は、東西をつなぐ線路上部を活用したデッキの建設に失敗したことが活性しない理由の一つになっている。また、大きな産業の誘致も必要である。例えば、造幣局の敷地に、交渉してテレビ局を呼んだらよいのではという話がある。テレビ局のある街は非常に華やかになる。タレントが通るとファッショナブルになり、それにつれてレストランや喫茶店や居酒屋もファッショナブルになり、まちがリニューアルされる。テレビ局は1つのいいアイデアであるが、必ずしもテレビ局ではなく、大学がもう1つできてよい。現在芸術大学がはやりであり、京都でも昔のドレスメーカーが造形芸術大学と称して、学生を獲得している。池袋には創形美術学校やデザイン関係の学校もあり、舞台芸術学院もあるので、これらを支援しながら総合大学へ移行すれば、数万単位の学生や先生が集まってきて全体の構図が変わる。このくらいのレベルでの企画性がなければ、池袋の今後の発展は難しいのではないか。その点で、路面電車などは大きな可能性を秘めていると考えている。もし路面電車が実際に池袋駅からサンシャインを通り、雑司が谷墓地まで開通すれば、墓地の観光化が可能になる。また、東池袋周辺は昔、水窪と呼ばれスラム街に近かったが、そこが今度完全に一新して劇場や図書館ができると、あの辺一体のイメージが完全に変わる。西口はよく知らないが、もう1つ牽引できる大きな拠点、人が集ま

ってくる拠点が必要なのではないか。立教大学が大きいけど、もう1つぐらい大きなものができれば西口のリニューアルになるのではないかと。

渋谷部会長： 事務局から何かあるか。

R委員： 私たちも豊島区の再生は池袋の再生にかかっていると考えており、現在様々な仕掛けを行ったり、内部で検討したりしている。施策の方向に、それらをどのように表現していくかということを経済段階までに修正案として提出していきたいと考えている。M委員は冒頭に「池袋はもう発展し尽くしているのではないかと」と発言されたが、私はそうは考えていない。少なくとも副都心の渋谷・新宿・池袋の3都市を比較すると、先々最も楽しみがあるのは池袋であると考えている。例えば新宿は中野の辺りまで拡大しているなど面的に飽和状態であり、ほとんど発展し尽くしたという感がある。渋谷もそうである。そういう点では池袋はまだ遅れている。その理由の1つは、まだ十分開発されていない場所が多く残っているということである。まず池袋駅には、東西に地下自由通路が3本、南北にも西側と東側に2本あり、これだけ自由通路が整っている構造は、渋谷・新宿駅にはない。恐らく都心でもそれ程ないのではないかと。しかしながら、地下のにぎわいが地上に出てこない。これをいかに出すかが今後の課題であるが、まずは駅が楽しい材料である。次に、池袋駅の正面には広幅員の道路が直角に直結しており、これも渋谷、新宿駅にはない特徴である。しかしながら、幅員が40~50mあるグリーン大通りの地下は、電気・ガスが入っているが十分活用されていない状況である。また、地下鉄が通っており、この点も楽しみの1つである。3点目は、まちの雰囲気である。新宿や渋谷に比べ池袋は猥雑であるとよく言われる。西口駅前などは確かにそうかもしれない。しかし、渋谷はただやたらと怠惰が蔓延しており、来街する人には若い人が多いが、道端に座り込み、その日だけ楽しめばいいといった感じである。池袋にはそういった人がいないが、渋谷は怠惰だけであり、猥雑よりもっと私はひどいと考えている。猥雑のほうがまだ活力があり、池袋はまだ再生できるため、私は先々は楽しみだと考えている。これらを活かしていくためには、池袋が何を売りにするのか、行政はどういう仕掛けでいくのかということを実際に考え、そういったことを計画の中に書き込んでいきたいと考えている。

渋谷部会長： M委員、どうぞ。

M委員： R委員の指摘に同感である。先ほど「開発・発展し尽くしている」と発言したが、これは敢えてひねた言い方で申し上げただけであり、私も池袋が一番発展する余地があると考えている。なぜかというと、池袋はイメージが悪いと世間でいわれているが、イメージが悪ければ悪いほど、その分よくなる可能性が強いと考えているからである。しかし、一気に変えるには何かしら

のテーマを持つなり、何かしらの起爆剤をつくらなければならない。例えば今話題に挙がっている、場外車券場といったレベルの話ではなく、一般の人が楽しめるテーマを持たなければいけない。例えば、レストランであるが、レストラン関係の雑誌には、六本木、麻布十番、表参道、青山、新宿、銀座などが載っており、池袋はほとんど載っていない。私がレストラン経営者の人達に、なぜ池袋に店を出さないのかを尋ねてみると、池袋は商業的に合わないと言われる。どうしても採算ベースに乗せられる自信がないという人が結構多い。池袋の主な来訪者は学生とサラリーマンであるが、飲食業はやはり女性客をターゲットにしないと成り立たないという。池袋は女性客が少ないという。確かに昔は、東武百貨店の西側は指摘の通りであったが、東武百貨店がリニューアルし、東京でも有数な立派なデパートになり、西口のイメージは劇的に変わったが、まだ商人から見ると過去の印象は拭えないようである。やはり一般の女性や家族連れが安心して池袋に立ち寄ることができるようなイメージをつくっていかなければいけない。これが課題である。確かにLRT構想は解決策の一つであるが、これは東口の話であり、私は西口にまだ開発する余地がたくさんあると考えている。また、最近話を聞いて愕然としたことがあるが、ようやくサンシャインシティが黒字になったということである。建設されてから25年経って、ようやく黒字になったという。それも中核店舗のユニクロとトイザラスを誘致したことによって劇的に変わったとサンシャインシティの重役から聞いている。池袋のシンボルであり、来訪者も多く、渋滞が起きているような場所でも厳しい現状だということに驚いた。サンシャインのように、何か開発をしても相乗効果で人を集めなければ絶対的に難しいのではないかと考えている。池袋はまだ本当に発展する余地がある。池袋にないものといえば、あとはホテルである。サンシャインシティプリンスとメトロポリタンがあるが、ホテルの宴会場施設や喫茶というものが足りない。一応それなりにはあるが、もう少し充実させないといけないものがたくさんある。こういったものを行政主導である程度考えていかなければいけない。最後に挙げると池袋は雑多である。例えば、飲屋街でも東にも西にもある。もちろんある程度は仕方ないが、何かしらの住み分けや統合はできないのか。言うのは簡単であり、相当難しい事とは承知しているが、これらについても考え、人の流れを行政が主導でつくっていかなければいけないのではないかと考えている。

渋谷部会長： R委員どうぞ。

R委員： 先程、I委員が指摘した産業の誘致、大型開発が必要であるという話に私も同感である。造幣局の敷地は我々も重要であると考えている。サンシャインの隣であり、広大な土地があのままでもいいのかと考えているが、先方から

了承を受けるのは難しい状況である。しかし独立行政法人に移行したので、多少従前とは違う動きになるかと考えている。土地の活用方法については、民間でもいろいろ考えているようである。先立って一般質問で、デジタル放送への移行に関する高層の電波塔について指摘があった。高層の電波塔はデジタル放送移行に際し必要であり、新聞等においても既に8カ所くらい候補地が出ているが、いずれも不適合であり、決定しないままになっている。高さ500mくらいの電波塔が都心にあると関東一円も全てカバーでき、デジタル放送を本格的に運営できるということで、池袋が候補に挙がっている。500mとなると、航空機の航路の真下には建設できないが、あるNPOはその辺りについても研究しており、既に総務省に打診をして、特に問題はないとの正式な文書ももらっている。一般質問では、NPOがこういった活動を一生懸命行っていることを知っているかという質問であったが、承知していると回答した。NPOなども皆一生懸命考えており、私たちも一緒になって知恵を出し合っていくという姿勢がこれからますます重要になる。これまでどちらかというと民間と一緒にやっていくということに非常に消極であったが、これからはますます重要になってくるのではないかと。

○委員： 別の視点での指摘になるが、この計画ではいかに魅力を持ったまちをつくるかということが一番大切なのではないか。例えば池袋にある未開発の敷地をどうするかということについて、そこに目玉となるような施設を持っていくことも大切であるが、それが果たしてまちの中で魅力を醸し出すものになるかという事はまた別の次元で考えなければならない。単発の乱開発や調和のとれない開発が渋谷のようなまちをつくり、心がすさむような環境をつくってしまったのではないかと。ここで行政ができることとすれば、この街の成り立ち、まちの資源などについてその誕生、変遷などを深く掘り下げ、それらの情報提供をすることなのではないか。そこからテーマが生まれ、面的に連続したまちづくりのビジョンが生まれるのではないかと考えている。この作業を実行できるのは、一開発者でもなく、一地権者でもなく、恐らく行政だけなのではないか。この部会において、「魅力」とは何かについて非常に問われている。例えば、ジュンク堂書店が池袋にできたが、なぜあそこにあれだけの大型書店が誘致されたかということ、それは大型書店が非常に多い街であり、本のまちというイメージづくりができるということ理由であった。こういったものをベースに持っていたため、大型書店を建設したという話がある訳である。また、熊谷守一美術館には、池袋モンパルナス、アトリエ村といった話があり、その中の拠点としてあの場所にあるのである。それをどう活かすか。西口駅前に集積している店舗を掘り下げると、それは面になってテーマとしてあらわれるのではないかと。まさにこれらが魅力への発掘

なのではないか。つまり、郷土資料館の郷土を調べる活動が、この「にぎわい魅力商工都市の形成」に大きく役立つかもしれない。また、1つ1つの店の歴史、洋菓子屋、紙店、本屋がなぜここにあるのかについて掘り下げると、「観光のまちづくり」に連動してくるのではないか。こういった作業を通じ、情報を提供するのが行政の役割なのではないか。この点については「観光ルートづくり」や「観光資源の再発見・活用」という施策があるので、視野には入っていると考えられるが、まちづくりをする区民への情報提供を重く考え、今後の計画に生かしていただきたい。

渋谷部会長： この点に関しては、様々な施策を総合し、にぎわいのまちをつくるということでは全委員一致していると見受ける。私が立教大学に勤めている関係で申し上げますと、確かに立教大学に行くときには地下街を通る学生が多い。特に雨が降っているときには、しかしながら、地下街には何もなく非常に退屈であり、店でもあればいいと感じている。また、立教大学は学習院大学と異なりキャンパスが狭く、本来ならば周囲に学生がたむろする施設が集積するはずであるが、丸井近辺に最近おしゃれなカフェができたくらいであり、そういった施設が非常に少ない。そこで学生は、大学内の狭い場所に滞在しており、学生からも不満が聞こえる。立教大学はかつて男子学生のイメージがあったが、現在は法学部では半数が女子学生になっており、キャンパス内は華やかである。大学に勤務している立場から言うと、学生が空いている時間に外にあふれ、滞在することのできる場所があれば、街も再活性化するのはないか。それでは、6番と関連する7番「伝統・文化と新たな息吹の融合する文化の風薫るまち」に移る。議論が重なっても結構であるので審議していただきたい。まず、事務局から説明願います。

事務局： 資料 - 5 - 2、 - 5 - 1の説明

渋谷部会長： 説明が終了したので、この体系について審議いただく。

O委員： 先程も指摘したが、地域の歴史、土地の成り立ちやそれに係わった人々などについて調べ、その情報から文化的な資源を掘り起こし、魅力あるまちづくりや商業地の活性化や観光に生かしていくという視点が必要である。そういう意味で資料にもあるように郷土資料館が行っているような地域調査を推進する必要がある。郷土資料館はテーマを持って行っているが、その他にも多くの区民の団体が興味深い活動をしており、こういった活動を推進するために行政ができることはこういった取り組みになるか伺いたい。

事務局： 本日、生涯学習課長が他の会議と日程が重なり欠席しているので、T委員から答弁をいただく。

T委員： 郷土資料館には学芸員がおり、郷土の様々な資料について様々な角度から調査をしたり、研究をしたりしている。その成果は特別展示という形で一定

程度区民に対し、その時点での成果を知らせているが、それぞれのテーマを始めるきっかけは様々である。区民から提供された資料から調査が始まる場合や、過去一度調査を行い、途中までしか解明されていないものを再度掘り下げることもあり、広がりについては本当に幅が広い。豊島区としては幅広い調査をしているが、郷土資料館として継続的に行っているテーマは、駒込地域の植木屋関係の資料、戦中・戦後の生活、池袋モンパルナス関係などの調査を行っている。また、郷土資料館の友の会、図書館を利用している活動団体も郷土資料館の学芸員と同じように様々な情報や資料からテーマを掘り下げ、調査活動を行っている。それらの情報も郷土資料館等に寄せられているので、今後はより一層、そういった人、団体を巻き込み、活動がネットワークとして展開されればよいと考えている。郷土資料館の展示スペースは、大変狭いので発表の場としては不足しており、現在は学芸員の調査を中心に展示しているが、本来であれば地域で様々な研究や調査をしたりしているグループの展示発表も実施してみたいと考えている。

○委員： まさにそういった郷土資料を収集したり、それを調査したりする人のネットワークをこのまちづくりに生かすという視点が必要なのである。また、資料館は手狭であるので展示するということではなく、そういった情報をまちづくりと連携させて施策として加えていく機能、情報を連携させるセクションを充実させることが必要なのではないか。この点を基本計画に盛り込んでもいいのではないか。また、郷土資料館に集積される郷土資料と呼ばれるような情報だけでなく、その地域に詳しい人から話を伺い、情報を引き出すことも大事である。そういった地域情報もまちづくりにつなげていくという視点で取り組んでいただきたい。例えば、先般「池袋 21 世紀会議」で情報収集に取り組んでいた際、豊島新聞が約 40 年前に「副都心ルネサンス」という特集を組んでいたのを発見した。東西の商店会長などが、一生懸命まちづくりについて文章を書き、新聞に載せていたのである。それを全てストックし綴じてみたら、非常におもしろくまとめられていたのである。現在の議論と変わらないような「渋谷・新宿に負けるな池袋」といった議論もあった。渋谷にはついていけないので、池袋はもう少し緩やかな環境のある街にしていこうということを 40 年前に書いている。これは豊島新聞に記載されていたので資料として残っていたが、恐らく人の中に隠れているもの、後輩に託されているものもある。そういった情報の掘り起こしをぜひともすべきである。そういった情報からまた若い人がまちづくりについてさらに発展させて考えていくことができるのではないか。情報の掘り起こしに関して、現在行っている人を援助するのか、新たに行うのかその点に関して伺いたい。

I 委員： ○委員の指摘について区はよく実行している。しかしながら、これも点に

なっており、それぞれのセクションで情報が抱え込まれており、それがつながっていないのである。現在、郷土資料館では植木屋伊藤伊兵衛展を開催している。彼は豊島区駒込あたりの植木屋を大きく盛んにした職人、商人であった。そのため駒込には、植木屋が非常たくさんあった。現在でも、例えば南池袋公園では植木屋が開催されている。昔は各家庭で植木屋が剪定を行い、植木屋を呼んでは2人で手入れを行っていた。ところが、そういった家がなくなり、マンション化したため、現在植木屋を必要としているのは公共団体と法人だけになってしまった。ホテルやデパート、ビルの屋上緑化、道路くらいである。そのため小さな植木屋はなくなってきている。そこで、植木職、植木事業の変遷や、どこに植木の需要があるのかを調べ、伊藤伊兵衛の話を中心に、今日の都市の緑化という話の中で植木産業、造園産業をどうしていくのか考えるべきではないのか。もっと豊島区において盛んにするための問題や課題を詰めていくと、伝統・文化が現在のまちの活性化につながっていくのではないのか。郷土資料館で伊藤伊兵衛展を行っても、昔については述べているが、現在の生活とつながらないところに問題がある。他にも池袋モンパルナスやアトリエ村は、熊谷守一美術館が唯一残っているだけで現在ほとんど跡形はないが、区が少し力を入れれば変わるのではないのか。アトリエ村は世界的にも素晴らしく、また、パリのモンパルナスは池袋モンパルナスより小さいという。池袋のように500人も絵描き及び絵描きの家族が住んでいたという地域は世界中にもないそうである。この他にも、すぐそばにある自由学園明日館、『赤い鳥』の目白庭園があり、白樺派の発祥地である学習院までつないでいけば、明治以来の日本の文化活動の系譜がたどれるのではないのか。また、東口にある雑司が谷墓地は、明治以来の日本文化史そのものである。成島柳北や岡八郎の墓がある。このように本当に楽しい散歩コースは幾らでも喧伝できる。昔は自由学園の方まで雑司が谷と呼んでおり、雑司が谷通信というものを羽仁吉一が書いているが、それには現在の上り屋敷、つまり池袋駅の線路の反対側まで広がっていたという。なぜ雑司が谷という土地が広範囲になっていたかという結局法明寺と鬼子母神である。法明寺と鬼子母神が中核にあり、これらは江戸開府400年よりも古い。鬼子母神のイチョウの木は700年、法明寺建立は1200年前であり、鎌倉時代、奈良時代の話である。そして、お会式には池上の本門寺からも来ている。お会式に集まってくる連を分析すると、それぞれの商業地を全て法明寺が吸い寄せていたことがわかり、偉大なる商業の中心でもあったことがわかる。鬼子母神の周囲は、昔は門前町のような所であり、それが目白通りまでつながっていたのである。鬼子母神の電停から目白通りに入るコースは全て門前町として非常に栄えていたところである。あの道がもう一度にぎやかになれば、あの辺

全体が輝いてくるのではないか。池袋駅前には超現代、未来と現代をあらわしているが、明治以来の近代日本は寺によって仕切られている。

渋谷部会長： 貴重な意見であった。文化によるまちの活性化を考える際には、これまでの豊島区における文化、産業も以前の産業は文化であるので、これらの知識をうまく区民全体で共有していくことが大事であり、これについては計画に盛り込んでいきたい。

R委員： 文化の範囲を定めるのは難しく、I委員から指摘のあった芸術活動、伝統芸能は明らかに文化であるが、池袋に最近増加しているラーメン屋は文化ではないだろうか。最近では昔ながらのラーメン屋長谷川の裏に四天王というラーメン屋がオープンした。路地に入ったところであるが、連日長蛇の列である。こういった競争の激しいところに、ラーメン屋を営んでいる人は出店したくなるという。ラーメン屋という資源も、まちづくりを推進する上では非常に重要なのではないか。カテゴリーとしては観光になるかと考えられるが、文化だと言う人もいる。そうした場合、ラーメン屋がたくさんできたと見守っているだけなのか、まちづくりの1つの材料として、文化として育てていくかは池袋のまちづくりに非常に重要なことである。ラーメンを池袋の1つの売り物にしたらどうかと言われたりするが、これまでやるべきかどうかについて議論したことはなく、どのカテゴリーで議論するかは難しいが、ラーメンをも文化として捉える発想があってもいいのではないか。これもまた、まちの多様性、発展性につながるかもしれない。

G委員： ラーメン屋で思い出したが、池袋活性化の1つとしてビックリガードをもう少し改善していただきたいと以前から考えている。既に20数年、非常に環境の悪い状態が続いており、歩いて通るのにふさわしくないのが現状である。自転車通行においても、上り下りがあり走りにくいので、ウィロードへ迂回してしまうことがある。R委員の指摘にあったように、ラーメン屋はビックリガードのすぐそばにいつも行列のできる店が2つある。そこにはジュンク堂もあるが、例えば東口で用事があり、ビックリガード周辺にも立ち寄りたいたと考えたとしても、西口へのルートを考えてみると面倒でやめてしまうことがあるので、ビックリガードを改善していただきたい。以前提言したように、線路上のデッキができるとういのだが、鉄道会社の関係で難しいということであるので、ビックリガードを改善していただきたい。

I委員： ビックリガードはどこを管理するのか。

事務局： 区である。

G委員： ビックリガードは通行するには狭すぎる。話は変わるが、I委員が先程指摘したように、宣教師館等の施設がすべて点になっているが、アトリエ村も然りである。アトリエ村周辺には、千川小学校の跡地があるが、こういった

敷地を活用して何か1つ拠点として区が施設を建設してはどうか。田端駅前には、田端文士村記念館という立派な施設があり、そこでは観光ルートマップを配っている。それを参考に、私は友人と充実した散策することができ、また、他にもマップを見ながら散策している男性もいた。R委員が指摘したように池袋駅は広いコンコースを持っており、様々な方向から人が流入してくるので、池袋駅に観光資源を紹介するようなルートマップを置くことができるといいのではないか。乾山の墓やケーブルの墓が豊島区にあるということは、豊島区に住んでいてじっくり調べればわかるが、通りすがりの人にも簡単なリーフレットで紹介できるといいのではないか。

商工担当部長：指摘された点、できれば来年あたりから、紙ベースのものやwebなどにより開始できればと考えている。情報の中身にまだ偏った面があるので、ラーメン店なども検討しながら、できるだけ様々な情報を載せていきたい。これはできるだけ早い時期に実行したいと考えている。

文化デザイン課長：当課では、文化資源マップを作成しており、そこにはとにかく文化資源と考えられるものはすべて集約しようということで情報収集しており、ラーメンもその中に含めている。ラーメンマップのようなものを今つくりつつあり、それが公開できるレベルに達するかどうかはまだわからないが、Webで公開できるレベルまで持っていきたいと考えている。

渋谷部会長：立教大学の近くにも有名なラーメン屋があるが、立教大学の先生は食べていないようである。また、土日に行くとなるととても長い行列ができていますので、行列を作っているのは、外からきている人のようである。

M委員：札幌ラーメン横丁などは全国的に有名であり、札幌に行くと、ラーメン横丁や海産物がおいしいというイメージを持つことができる。そういったレベルにまでなれば相当な目玉になる。話は変わるが、伝統・文化はもちろん保護していくべきであり、脈々と伝えていかなければならない。I委員が指摘した雑司が谷地区の明治以来の文化史跡なども伝えていかなければならない。政策にある「芸術文化の振興」は素晴らしいことであるが、これを実行するには相当な馬力が必要である。確かに芸術関係の施設をそろえ、興行が行われ、それにより人が来て、それがまちの起爆剤の1つになるという展開は素晴らしい。「文化の風薫るまち」という言葉はロマンチックで格好よく、こういったテーマは絶対必要である。このテーマについて、どういう方向性で考えているのかについて伺いたい。

文化デザイン課長：まず、池袋演劇祭などに区が関わり、劇場都市のイメージづくりを行っていることが1つの方策である。しかしながら、これが十分に機能を果たしているかという点、決してそうではない。劇場都市のイメージでは、池袋は下降線をたどっており、現在の演劇の批評や、新聞・雑誌で取り上げられる演

劇の舞台は、新宿や世田谷、渋谷になっている。池袋の劇場が最先端ではないという現実がある。シアターグリーンなどの小劇場から、実に素晴らしい劇団を輩出しているが、その100人規模の小劇場から飛躍しようとするときに、受け皿になる中規模以上の劇場が豊島区内にはあまりない。そこで、芸術劇場の小ホール程度のもの、あるいは東池袋に設置する新規の施設をこれから飛躍する新しい担い手の土壌にしていきたいと考えている。また、あまり光は当たっていないが地道に活動している団体にもレベルの高い人が数多くいるので、そういった人の活躍する場面を創出していきたい。こういった財政状況であるのであまり経費はかけられないが、区は広報などの後方支援に徹し、何とかそういった人たちが活躍することで全体の芸術振興の活性化につなげていきたいと考えている。

M委員： これは本当に馬力があるテーマであるがやるべきである。例えば、下北沢は街としては小さいが、劇場の街とライブハウスの街として発展した。そういった部分を取り入れていくべきである。池袋においてこのテーマを大々的に実行できればよいが、これは本当に大変な作業である。一朝一夕にパリやウィーンのようにはならない。LRT構想もこのテーマにおいてイメージ改善の牽引役になるのであろうが、簡単なことではない。しかし、やはりこれは続けていかなければならないことで、誰かが最初にやらなければいけないことであるが、相当な覚悟がないと無理である。途中であきらめるのであれば最初からやらない方がいい。その覚悟を伺いたい。

I委員： これは覚悟の問題ではなくて予算の問題ではないのか。

渋谷部会長： この点は議会においても頑張ってください。文化といえば大学と関係しているが、立教大学はメディア関係者が多く、新しいメディア関係の学部を設立する計画が進んでいる。かつて東京大学の蓮實前学長が立教大学にいた頃に1度提案されたものの、頓挫していた。それをもう一度復活させようと言う話であるが、残念ながら、池袋で実施するにはキャンパスが狭いため、新座キャンパスで展開する案がある。しかし拠点的施設は池袋に置いておかないと学生が来ない可能性があるという話もあるので、舞台あるいは映画出身者の衆知を集めて、できたら豊島区と連携してやっていただければと考えている。余談であるが、ポール・マッカトニーのマネジメント会社に立教大学OBがいる関係で、昨年ポール・マッカトニーを呼ぶ企画があったが、成田到着時に警備が混乱したため、先方から警備上の不安を理由にキャンセルされてしまったこともあった。特に立教大学はメディア関係者、タレントなどを多く輩出しており、池袋に愛着がある人も多いので、こういった活動機会があれば、先ほどテレビ局は非常に華やかであるという話があったが、できれば大学と連携して、活性化していただきたい。

- I 委員： 立教大学が造幣局の跡地に新しい校舎をつくってもいいのではないか。
- 渋谷部会長： それは理想であるが、財政上の問題で当大学も苦しい。
- I 委員： 学生は数多く来るのではないか。
- 渋谷部会長： 豊島区の後押しがあれば可能かもしれないが難しい。
- M 委員： 新しくできた六本木ヒルズを見にいったことがあるが、フィンランド大使館の近くの何も無い場だったところが、通りの名前も新しくケヤキ通りと名付けられ、イメージが一新しており、さすが森ビルであると感じた。六本木ヒルズには美術館があり、夜 12 時まで開館している。美術館は大体、夕方 5 時で閉館してしまうが、仕事が終わった後でも見学に行くことができる美術館があそこにはある。その他に劇場、映画館、テレビ局も入っている。あのように大規模プロジェクトでまちをそっくり変えるようなことが必要なのではないか。そして、それには民間の力が必要である。行政が主導で民間の力を借りて事業を起こすというやり方で、池袋も手を打たなければいけないのではないか。もちろん池袋ではなく、大塚、巣鴨でも構わないが、私は池袋でやるべきと考えている。六本木と同じ手でいいのかという議論の余地はあるが、六本木ヒルズにはかなりの人を吸収されており、池袋も花火を大きく打ち上げなければならないのではないか。リーダーシップを行政がとり民間の力を活用して行っていただきたい。
- I 委員： 森ビルについての感想であるが、仕事で六本木特集を組んだことがあり、品川等もリサーチしたが、専門家から見ると六本木には森氏の意思があり、1つの方向性があるが、品川はビルばかりで、何を狙っているのかわからないので、最低だという評価がある。将来、東京が国際都市である場合に、六本木や品川が観光名所になるとは私は考えられない。同様のものが世界中に多数ある。そこで、池袋は外国の都市にもヨーロッパにもアメリカにもない要素を持った都市にしたらどうか。関連した話になるが、六本木ヒルズには美術館だけでなく図書館もある。入会金は7万円であるが、当地に勤務しているサラリーマンに対して、様々な便宜が計られているのである。美術館は専門家がまだ大勢いるのでよいが、図書館について言うと、23区全体の学芸員が次々に削減され、普通の職員が館長などを兼職しているのが現状である。その場合に、私は六本木の図書館が参考になるとは考えていないが、浦安市の図書館は日本中で話題になっている。なぜなら、本が売れない、本を読まないと言われていた中で、浦安では市民の6割が図書館を利用している。図書館を利用する市民は自分でも本を買うため、浦安には5～6軒大きな新刊本屋ができたという。これは全体の1つの文化活動である。図書館は貸本屋ではないので、渡辺淳一の『失楽園』を100部も揃えるような方法は本当にナンセンスである。また、学者などが死去したときにその蔵書を引

き取ってくれる図書館や大学がないことに遺族は困っている。遺族であっても学者でない息子が引き継ぐと、貴重な本が全て紙くずになってしまう。良い学者のコレクションというのは世界的なもので、一橋大学は有名な経済学者シュンペイターのコレクションを全部買い取ったことがある。また、東洋文庫は支那通のモリソンという英国新聞記者が集めた英文系コレクションを所蔵していたが、これは三菱が購入している。少なくとも豊島区では豊島区の市民活動に対して、様々な情報を流していくことのできる公共図書館を造っていただきたい。専門家を尊重し、専門家を使い切るような図書館にしていきたい。国会図書館も非常に能力が高く、世界的なものであるが、国会議員の中で国会図書館を使っているという話はあまり聞かない。日本には様々なファンクションが昔からあり、そういった部分は先進国、先進社会なのであるが、そういうものをうまく活用できていない。これはかなり深刻な問題であるので、その点を是非考え直していただきたい。

T委員： 東池袋に新しい図書館ができるが、区立図書館としてどのような本を区民に提供していくのかということは重要な問題である。また、司書職員のあり方や館長の問題は指摘された通りである。豊島区には現在、全部で8つの図書館があるが、新しい中央図書館のあり方の問題も含め、図書館全体のあり方を、I委員が指摘されたような方向で全面的に見直しをしていく。

I委員： 文化行政や文化政策は、図書館の活用が基礎となる。そこが生き生きしてくれば、芸術、音楽、美術、文学、詩、演劇も生き生きしてくる。図書館に若い人を集めることが重要である。

T委員： 現在、鋭意検討中であるので、方向性が見えた段階で区民に対して詳しい話をしていきたいと考えている。

O委員： 今、指摘された話は基本計画のどの施策に入ってくるのか。

渋谷部会長： 確かに図書館については記載されていない。余談になるが、アメリカでは図書館は情報結節点として認識されており、インターネットやあらゆるデータベースにアクセスでき、転居した人はまず図書館に向かい、まちの情報を調べるということが普通になっている。区役所ではなくて図書館で情報を収集することが普通になっているのである。しかも無料で高価な情報を入手できるという。本区の図書館に関してもそういった観点から見直しをしていただきたい。

T委員： 図書館は文化にも関係するものであるので、本資料には図書館という文字は記載されていないが、「郷土資料館の運営」が想定される事務事業として記載されている。また、第1部会において「生涯学習」の分野において図書館は取り扱われている。

渋谷部会長： 第1部会に期待したい。

- J委員： 私も図書館を利用しているが、有栖川記念公園にある都立図書館ではインターネットが使い、館内でパソコンを使用することもできる。都立図書館ではインターネットは無線になっており、無料で使えるようになっている。これらの設備は区立図書館でも整備していただきたい。ネットワーク環境の整備は本を購入するよりは安価であり、小中学生も宿題をやるのにインターネットが必要な時代である。
- T委員： 現在の図書館には施設上の整備の関係から整備可能台数を把握することは難しいが、新しい中央図書館には相当数の整備をする予定である。
- O委員： 「6 都市交流の推進」についてであるが、都市交流は防災協定などの具体的なものと仲良く情報交換をするといった抽象的なものもあるが、もう少し踏み込んで今後の都市交流の中から何かを生みだしていくというビジョンはないのか。
- 商工担当部長： 国内 19 都市と様々なスタイルの交流を実施しているが、豊島区民としてよかったと実感できる場面は稀であるので、実感できる場面を増やす努力をしたい。交流都市の最も大きなねらいは経済的な効果であり、各都市は東京の人に地元へ来ていただきたいと考えている。さらに極端な話をする、観光農園を利用したり、地元の特産品を買ったり、温泉宿に宿泊するといったことをリピート客として獲得したいという要望が強いので、まずこちらから区民が訪問したくなるように少し具体的に手がけていきたい。
- O委員： 昨年参加した防災サミットはむしろ観光の話題が中心になっていた。他の交流都市にしても、例えば池袋西口の公園で物産展をやる場合に参加する都市が本当に交流都市でいいのか。幅広く交流するのは悪いことではないが、やはり都市交流の中から豊島区において何かを生みだしていくというビジョンを持ち合わせていないと、舞台の提供役で終わってしまうのではないのか。また、海外都市との文化交流についても積極的にやっているが、これについてもビジョンを持って取り組まなければ意味がないのではないのか。例えば昨年ライブツィヒを訪問しているが、その後のライブツィヒとの関係が見えてこない。せっかくドイツの都市と交流が生まれたのであれば、ドイツから学ぶべきことは環境、リサイクル、福祉、技術系の話まで多岐にわたり、これらの情報を豊島区の企業に役立てるといふビジョンはないのか。
- 商工担当部長： 資料 - 5 - 1 の 3 ページ「背景課題等」に記載してある通り、文化あるいは経済面での成熟した交流に達していない面があることを率直に感じている。指摘をいただいた通り、区民に交流を実感していただき、成果を目に見える形で実現していかなければいけないと考えている。秩父市とは都市交流 20 周年迎えたが、現在東京都が観光に力を入れており、東京に観光客を呼び込む 1 つの手段として、東京近郊の観光地開発に注目している。例えば、

鎌倉、箱根、日光であるが、その中に秩父を位置づける方向を模索している。秩父に向かう玄関口は池袋であり、同様に池袋を起点とする川越は外国人へのアピールを持ったエリアであるので、これらの都市と豊島区の関係に、新たな光が新しい角度から当てられているので、秩父市とは違う側面で新たな連携が構築されるかもしれないと考えている。

I 委員： 西口広場で物産展を行うのは結構であるが、物産展はデパートの年中行事でもある。デパートの物産展に関する情報を区は把握しているのか。例えば、デパートの実績で、京都、北海道、青森の物産展などにおいて、何が売れ、売り上げはどのくらいであったかなどである。つまり、京都や北海道の物産展は、豊島区でも、池袋の三越、西武でも催しているが本当に利益が上がっているのか。そういったデータをデパートから区は入手しているのか。

商工担当部長： 入手していない。豊島区が実施している物産展は、あくまでも観光物産展であり、儲けよりも都市の名前を売ることが目的である。つまり、儲けているところもあるが、少し損をしても郷土の名産品や特産品を知ってもらうことに主眼をおいているのである。

I 委員： 後段の秩父の件は非常に大事である。秩父は池袋経由であるので、秩父という観光名所を、鎌倉・箱根・日光とあわせ4つの観光名所として認識させることができればとても大きい。

渋谷部会長： 各論、事務事業に関しては様々な意見があるが、今指摘された意見は全体会を経た後の部会で議論の蓄積を活かし、より具体化させていきたい。ひとまず、今回の部会の課題となっている政策と施策の方向に関しては事務局の原案でよろしいか。

O 委員： 変更を要望するものではないが、先程指摘させていただいた地域情報や郷土の情報をまちづくりにつなげていくためのセクションや機能を加えることについては、I 委員が指摘した図書館の件とも関連する考え方でもあるので検討していただきたい。

事務局： O 委員から修正案が提出されると認識してよろしいか。

O 委員： この体系に盛り込む形での修正案の作成は私には難しい。

渋谷部会長： 修正すべき内容は、地域の情報を集積し、発信するということについてか。

O 委員： そうである。先程指摘した、地域の歴史や地域の成り立ち、それに係わった人物の情報について、それらをどこでストックし、まちづくりの情報として提供していくのかである。その際、これは行政だけで実行するのではなく、区民活動家と連携をしながら情報をストックし、まとめていくという考え方でも良い。極論で言えば、郷土資料館を拡大し、まちづくりと連携させるという方法や、図書館に地域情報の専門的なストックを設け、まちづくりと連携させる方法でも良いと考えている。

- 渋谷部会長： その指摘は「文化によるまちの活性化」の中の施策の方向に記載されている「文化資源の再発見」の考え方に、歴史的な施設の見直しを拡張し、広い意味で文化を捉えて、それをうまく整理し、発信していくという形で組み込めるのではないか。
- O委員： それも可能であるが、先程の議論において、この機能を果たすセクションやストックする場所については現在の所白紙であるという感じを受けたので、すぐにこのセクションを構築しろという話ではないが、この考え方をしっかりと盛り込んでいくことについてしっかりと考えていただきたい。
- 政策経営部長： 指摘の点については、7-(1)- 「文化によるまちの活性化」の「2 文化資源の保護と活用」において、単に保護するだけでなく活用すると記載されており、また、I委員から指摘があったように、行政においても取り組んできていることであり、それぞれの縦割りの中で埋没してしまっていることが課題なのである。セクションをどこに構築するかということや、その中身を具体的にどうするかということは、具体的な事務事業の中で盛り込まれていくので、その際にトータルの組織についても議論したい。
- 渋谷部会長： つまり、想定される事務事業はあくまで例示であるということである。この点については、全委員の共通認識として今後の議論に反映させていきたい。
- J委員： 先程議論になった新設の図書館について全然触れられていないので、少し触れてはどうか。
- 事務局： J委員の指摘については、第1部会で検討している「生涯学習・生涯スポーツの推進」という施策の方向において、その施策レベルで「図書館サービスの充実」という項目が具体的に入ってくるのではないかと考えている。
- M委員： 全体的にいえば、専門家が作成しているのでよくできているが、通り一遍の気がする。しかし、あとはこれを生かし、実務的な面について、後半の部会でしっかり話していかなければならないと考えている。
- I委員： 豊島区だけでなく、官僚が書くものはつまらない。財務省が『ファイナンス』を毎月送ってくるがつまらない。これは欠点を突かれると一番怖いという理由から仕方がないことではある。先程の地域情報の発信については、小林委員はセクションを構築するべきと指摘したが、庁内に設けるよりは、豊島新聞や豊島テレビをしっかりとさせることが重要なのではないか。現在、豊島テレビと豊島新聞は惨憺たる状況で、地域社会の振興において役割を果たせていない。庁内とメディアのどちらが効果的であるかはわからないが、メディアであれば、先程話題に上がった「副都心ルネサンス」の記事なども可能になる。例えば、池袋においしい店がないという認識も間違っていて、情報誌が適切に紹介するという役割を果たせていないだけである。池袋、目白、大塚、巣鴨と皆散歩しているが、どこもよいところがある。

渋谷部会長： 情報発信の方法がよくないということである。それでは議論は尽きないが、時間であるので、この部会の課題は一通り終了とする。しかしながら、第1回、第2回等に積み残した修正案に関する審議が残っているので、全体会前にもう一度部会を開催したい。全体会は11月末頃予定されているので、候補としては11月12日水曜日の午後6時が第1候補、第2候補としては、11月18日の午後6時である。本日は欠席の委員がいるので、欠席の委員の都合も聞いた上で事務局に調整していただきたい。それでは最後に事務局より連絡事項がある。

事務局： 次回の日程については、12日、18日のより多くの委員が出席できる日程を事務局で調整させていただき、通知する。なお、修正案の提出については、11月4日を目途に事務局に連絡をいただきたい。また、全体会は現在のところ11月27日を候補として調整している。最後に、前回〇委員が発言された、サンシャインにおけるペロタクシーについてであるが、調査した結果、京都にあるNPO法人が試験的に実施しているとのことであった。料金も徴収して運行をしているようであるが、運行に関する許可関係など法規的な部分については現在調査をしているので、次回まで時間をいただきたい。

〇委員： 私も調査したが、10月一杯の実験のようである。

渋谷部会長： それでは、これをもって本日の部会を閉会する。

会議の結果	・ 継続審議 ・ 第6回日程 事務局で調整する
提出された資料等	- 5 - 1 基本構想審議会（第2部会）「施策の方向」現状と課題 - 5 - 2 基本構想審議会（第2部会）政策・施策・事務事業一覧 - 5 - 3 基本構想審議会（第2部会）新基本計画分野別体系事務局案
その他	